

プロジェクト報告書

団体名 人の輪ネット

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

東日本大震災による避難世帯のための、子育ておよび学習支援活動

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

大震災当時、震災と原発事故による混乱と、避難先で差別やいじめを経験した子どもたちですが、当時の心の傷は癒されないままです。避難先の学校に通うようになっても学力差が埋まらない子もおり、福島県内で甲状腺がんの子どもの数が急増するなか、経済困難やストレスを抱えながらも、当分の間故郷に戻れないと考える子育て避難世帯は多くいます。震災4年目を迎えて、避難先への移住・定住も視野に入ってきたため、避難先の東京の子どもたちと伍していけるよう学力差を解消し、震災時に揺らいだ自信や自己肯定感を回復していくことを目的に、子育て避難世帯のための学習支援活動を行いました。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

東京都に避難中の子どもと家族を対象にして、土・日・祝日などの休日を利用して、交通の便の良い千代田区で親子参加の学習支援を開きました。内容は、学校の勉強の補助が主で、それに英会話、作文指導、身体を使った遊び、絵画や音楽の創作活動なども加えました。東京郊外に避難している世帯で保護者が参加できない場合は、スタッフがお迎えサービスも行いました。指導は英語や作文などの指導経験者があたり、大学生のボランティアさんがアシスタントをつとめました

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

学習支援活動は、学校で分らない箇所の解説や宿題の手伝いから始めました。保護者が英会話に関心が高いとわかったときに折よく英語の現役講師に出会えたため、学校の勉強のバックアップのほか英会話を始めました。兄弟姉妹での参加が多く、年齢に幅があるためボランティアさんや講師の先生の人数を増やしました。指導は、社会人の他に大学職員や研究者にも協力いただきました。集中力を保てない子向けに、あえて外遊びの時間もつくり、英語の歌を歌うなど好奇心を刺激し、前向きに勉強できる雰囲気作りを工夫しました。勉強会でありながら、同時に都内の避難先に点在して暮らす子どもにとって、同郷の友だちをつくる場となりました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

小学高学年から中学生にとっては、勉強会で接する大学生ボランティアさんが将来のモデル、身近な目標と感じられたようです。それが子どもたちの「やる気」に繋がったようです。成果としては、作文の入賞や、漢字検定の合格などがありました。勉強を教わるだけでなく、講師の方々に意欲を引き出してもらったことが一番の収穫だったと思います。しかし、回を追うごとに、将来に夢を抱いて学ぶ子と、長引く避難生活で利他的になっている子の違いが生じていることがうかがえるようになりました。それでも、子育て中の避難世帯で集い、支え合いと協力の環境づくりとできました。ご支援いただいた皆様には、心から感謝申し上げます。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

○参考資料あり・特になし

【学习支援・写真】

